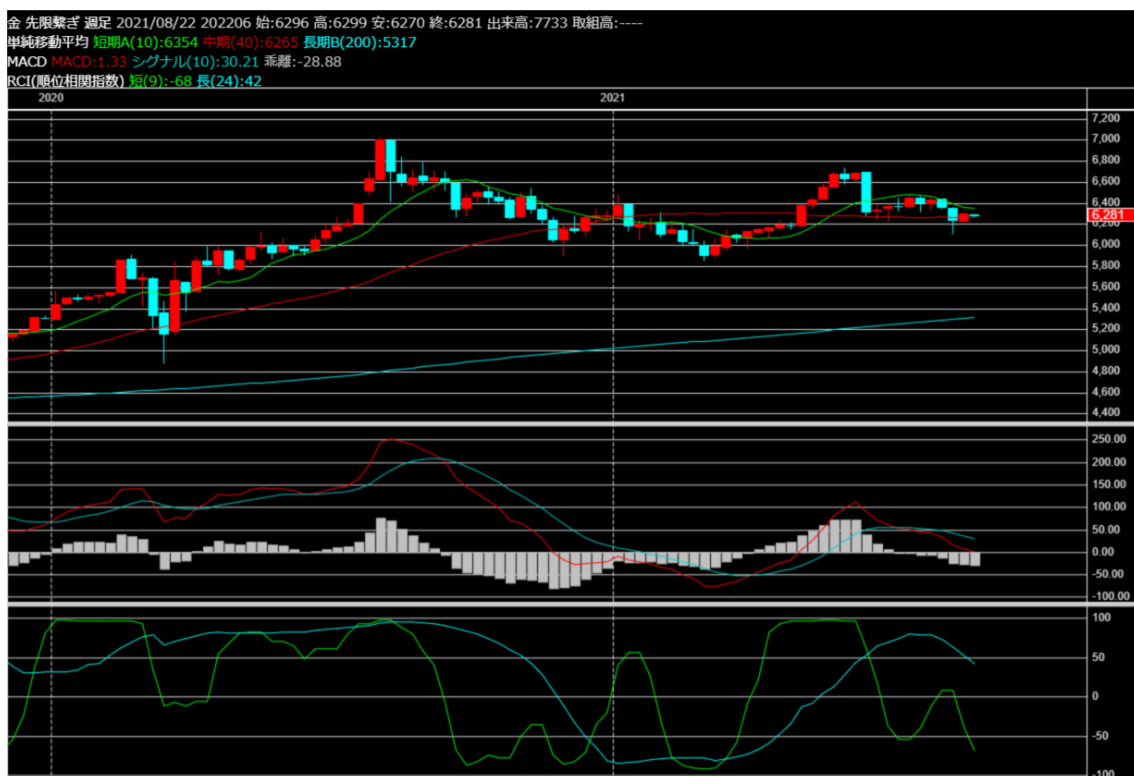


## ＜金標準先物、FRB 年次シンポジウムまで戻り売り基調・・・＞



(出所：オアシス)

今週は、26 日からカンザスシティ連銀主催の FRB 年次シンポジウムが控えており、現地時間 27 日 10:00 (日本時間 27 日 23:00) にはオンライン形式でパウエル FRB 議長が「経済見通し」と題した講演を行う予定である。特に 8 月 6 日の雇用統計発表以降は、早期のテーパリング開始の憶測が強まり、NY 金は短時間で 60 ドルを超える下落を示すなど、テーパリングに対する警戒を示している。

また先週は、FOMC 議事録が公開され、「資産購入ペースの減速は来年の早い時期に適切となる公算がより大きい」と示され、ブラード・セントルイス連銀総裁は「資産購入プログラムのテーパリングに関して 2022 年第 1 四半期までに終わらせることが望ましい」と発言するなど、早期のテーパリング開始を織り込む動きを見せている。そのため 27 日の講演ではテーパリング開始時期の手掛かりを得られるかについて関心が高まりを見せるため、金標準先物は、戻り売り傾向が強い値動きが予想され、6350 円以上は戻りが抑えられる可能性が高いと思える。

(2021 年 8 月 22 日記載)

### ＜テクニカル＞

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では MACD とシグナルが下げており、RCI においても短期が下げながら長期も下げて来っており、どちらのオシレーターも下向きであり、強気のクロス・サインは示していない事から、戻り売りの値動きが予想される。